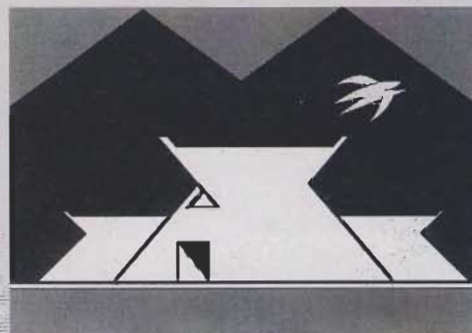


みやざき

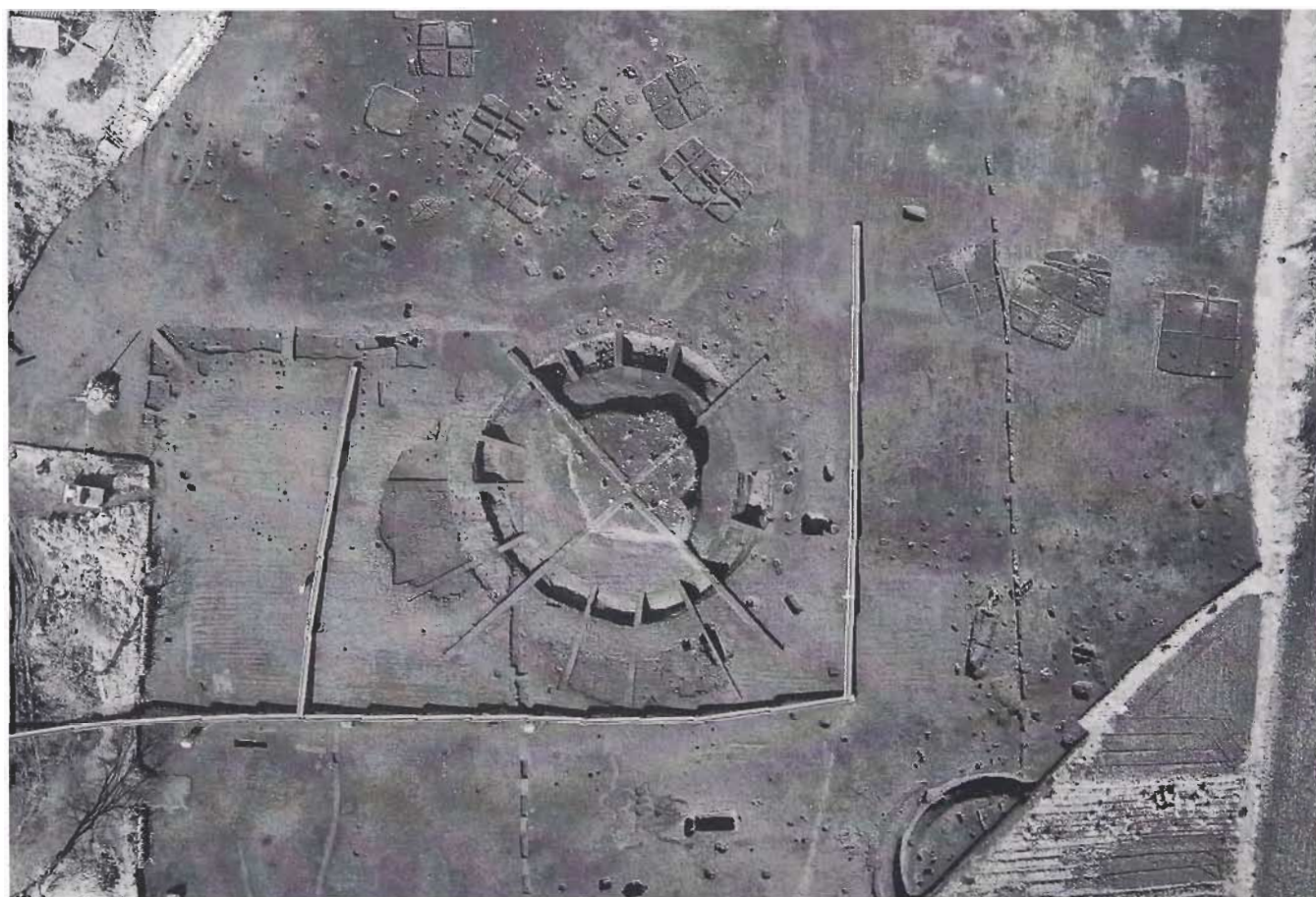


第4号

東九州自動車道(都農～西都間)建設に伴う調査始まる。

平成12年9月から高鍋町下耳切第3遺跡、新富町音明寺第1遺跡・同第2遺跡・藤山第2遺跡、11月から高鍋町北牛牧第5遺跡・牧内第1遺跡、新富町東畦原第3遺跡・西畦原第1遺跡の計8遺跡の発掘調査が始まり、旧石器時代～古代の遺物が、特に旧石器が多く出土しています。

発行日 平成13年3月30日
発行 宮崎県埋蔵文化財センター
〒880-0212
宮崎県佐土原町大字下那珂4019



上の写真は、高鍋町大字上江（東九州自動車道建設予定地）の下耳切第3遺跡で見つかった古墳と地下式横穴墓及び竪穴住居群です。当遺跡は高鍋町北西部の小丸川の右岸、標高約90mの台地上に立地しています。現在調査中ですが、縄文時代中期頃と古墳時代後期から奈良時代にかけての集落跡、古墳時代後期の円墳や地下式横穴墓、土壘墓などを確認しています。

遺物は縄文土器、須恵器、土師器、石錘や敲石などの石器類が多量に出土しています。

中でも注目されるのは、カマド付きの竪穴住居を多数検出したことと、古墳の周溝を掘り込んで地下式横穴墓が作られていることです。当時の人々の生活や古墳と地下式横穴墓との関係を考える上で貴重な遺跡となりそうです。

遺跡の紹介

音明寺第1遺跡 (新富町大字新田)

遺跡は、標高100mで、茶臼原段丘面と三財原段丘面のちょうど境界の斜面下部に位置しています。

調査の結果、旧石器時代及び縄文時代早期の集石遺構や、中世の道路状遺構が検出されました。特に、道路状遺構は9条確認され、最長20mで、最深部にはピットが列をなして検出されました。また、遺物としては、旧石器時代の船野型細石刃核や、縄文時代早期の土器片・石鏃等が出土しています。その他にも、チャートや黒曜石の剥片が多量に出土しています。



道路状遺構

音明寺第2遺跡 (新富町大字新田)

遺跡は、鬼女川左岸の三財原台地状の標高90mの丘陵に位置しています。

調査の結果、旧石器時代後期の礫群5基と6ヶ所の遺物集中区が確認されました。また、遺物としては多数の剥片やチップの他、ナイフ形石器・スクレイパー・石核・三稜尖頭器などの石器が出土しました。

中でも注目されるのが、A T下位層の礫群検出やナイフ形石器・石斧・敲石・礫器等の石器の出土です。南九州の後期旧石器研究の貴重な調査指針となりそうです。



A T下黒褐色土層検出の礫群

西畦原第1遺跡 (新富町大字新田字西畦原)

遺跡は、一ツ瀬川左岸の標高約80mほどの三財原段丘面に位置しています。

調査の結果、弥生時代中期後葉から後期前葉にかけての竪穴住居跡が3軒、掘建柱建物跡が1棟確認されています。

遺物としては、胴部に突帯を持つ中溝式の甕や鋤先状の口縁を持つ壺、瀬戸内系の凹線文の口縁を持つ壺などの土器片や磨製石鏃や砥石などの石器が多数出土しています。



弥生時代中期～後期の住居跡

野首第1遺跡 (高鍋町大字上江字青木)

野首第1遺跡は、高鍋・木城町境の小丸川右岸に形成された、標高30mの舌状台地上に位置しています。

調査の結果、縄文時代の散石・炉穴・集石遺構、古墳時代から古代の竪穴住居、横穴式石室をもつ古墳などが確認されました。

遺物としては旧石器時代の石斧・台形石器・三稜尖頭器、縄文時代早期を中心とした土器、古墳時代から古代の須恵器、古墳からは鉄剣・馬具・耳環・須恵器等が出土しています。



7世紀前半の横穴式石室

しもなか 下那珂遺跡 (宮崎県佐土原町大字下那珂字峯前)

下那珂遺跡は、佐土原町大字下那珂の県総合農業試験場内、石崎川左岸の標高約45mの丘陵上にあります。調査対象面積は約5,000㎡です。

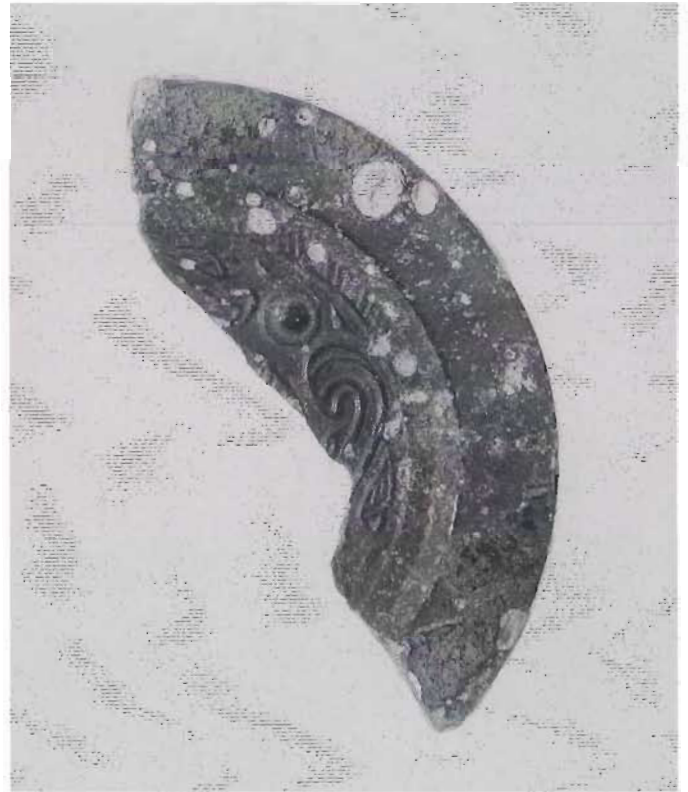
遺跡周辺は、以前に宮崎県教育委員会が下那珂貝塚として調査を行い、弥生時代後期後半（2世紀～3世紀初頭頃）の竪穴住居跡や土器が多く確認された場所でもあります。

今回の調査では、多くの弥生土器と住居跡・土坑などの遺構群が確認されました。中でも住居跡群は、台地辺縁部に何軒もの重なりをもちながら100基以上検出されました。住居跡群の年代は、出土した土器から考えて、弥生後期後半中心であると考えられます。

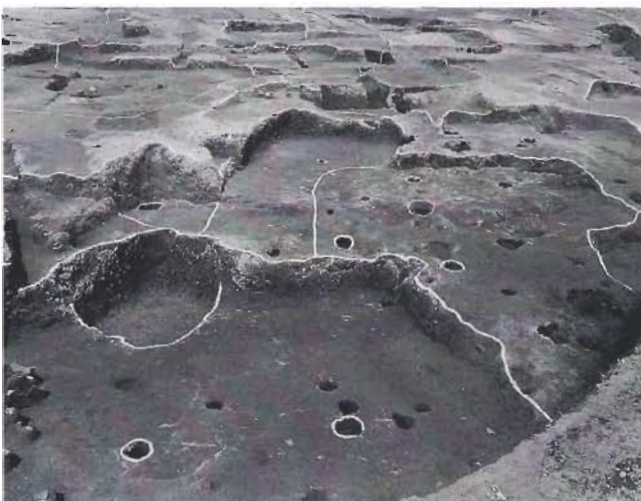
また、住居跡からは多くの土器以外にも、宮崎県では珍しい銅鏡の破片が出土しました。銅鏡片は、完形の1/3程度残存しており、北部九州で多く確認されている破鏡の類だと考えることができます。現存する大きさは、長さ8.6cm・幅3.3cm・厚さ0.5cm（いずれも最大値）です。復元した径は9.2cm（復元推定値）になると考えられます。銅鏡の文様帯部分は、厚さ0.3cmで、細かい線によって逆S字状の龍（蛇？）と小鳥と思われる文様が同心円状に描かれています。この文様等から考えて、この銅鏡は、現在のところ前漢鏡の一種である虺龍文鏡（きりゅうもんきょう）だと考えられています。

弥生時代の調査終了後、更に南東側約700㎡で調査を進めたところ、旧石器～縄文時代早期に属する石器類・縄文土器（貝殻条痕文・押型文）多数、集石遺構2基・連結土坑5基といった遺物や遺構が確認されました。

今回の調査では、旧石器～弥生時代と幅広い時代に及ぶ調査となりました。その中でも、特筆すべきは弥生時代の住居跡群であり、住居跡総数は100基を超え、県内の弥生時代の集落遺跡として最大規模のものとなりました。銅鏡片と併せて、今後の南九州の弥生文化を考える上で貴重な資料となりました。



出土した虺龍文鏡片



重なり合う住居跡群



弥生土器を伴う土坑

新しくなった埋蔵文化財センター本館

宮崎県埋蔵文化財センターは、これまで宮崎市神宮の博物館の北側にありましたが、佐土原町下那珂に移転しました。

これは東九州自動車道の建設をはじめとする開発事業に伴う発掘調査が増えたためです。調査の量は毎年増える一方で、それに従事する調査員や作業員の数も増え遺物の整理作業にも支障がでてきました。そのため、県総合農業試験場果樹特産部の跡地に移転することになり、平成12年2月に新しいセンターが完成しました。

これまでのセンターは展示のための施設として分館として残してありますので、これまで通りご利用をお願いします。

新しいセンター（本館）は調査・研究のための施設で展示等はしていませんが、ここでの成果は分館でご覧いただけます。

右の写真が本館の正面（東側）よりとったもので下の写真は空からの遠景です。近くに国道10号線、佐土原バイパス、遠くにオーシャン45やシーガイアのドームが見えます。



表紙の右上のマークについて

これは埋文センターのシンボル旗のデザインです。図案の内容は飛鳥が昭和40年頃発掘された下那珂遺跡出土の弥生土器の線刻画です。埋文センターの所在地を表し、ここを基盤に羽ばたくイメージを示し、建物は過去から現在に引き継がれている生活の核となる集落、平和な共同体を表しています。背景は青い空と山なみ、台地、豊かな自然に恵まれた宮崎県をあらわしています。

埋文講座の案内

毎月第4土曜日 13:30~15:00

場所：神宮分館1階研修室 * 7月は県民文化ホール

埋蔵文化財講座『遺跡をたずねて』

年間テーマ「最近の発掘調査の成果から」

- 4月28日 本城原遺跡（野尻町）
- 5月26日 榊粉山遺跡（高原町）
- 6月23日 沖ノ田遺跡（宮崎市）
- 7月28日 平成12年度発掘調査速報
下那珂遺跡（佐土原町）
下耳切第3遺跡（新富町）
坂元A・馬渡遺跡（都城市）
東川北地区遺跡群（えびの市）
- 8月25日 町屋敷遺跡（宮崎市）
- 9月22日 王子原遺跡（都城市）
- 10月27日 野首第1遺跡（高鍋町）
- 11月24日 木脇遺跡（国富町）
- 12月22日 音明寺遺跡（新富町）
- 1月26日 塚原遺跡（国富町）
- 2月23日 鴛尾地区遺跡（都城市）
- 3月23日 吉野遺跡（延岡市）



交通案内

- 佐土原駅（JR）- 車10分
- 高鍋・延岡行きバス- 御殿下バス停下車徒歩5分

宮崎県埋蔵文化財センター

本館 宮崎郡佐土原町大字下那珂4010
(TEL 0985-36-1171, FAX 9885-72-0660)
分館 宮崎市神宮2丁目4-4
(TEL 0985-21-1600, FAX 0985-26-2634)